

推薦のことば

大西弘高、黒岩かをる両氏の執筆による『医療コミュニケーション実践マニュアル』が、ぜんいち出版株式会社から刊行された。

人間社会の中でコミュニケーションが極めて重要なことは、言うまでもない。特に医療の現場では、病気という肉体的・精神的な負担を抱えている患者やその家族と医療者という特殊な関係であるから、繊細にしてかつ高度なコミュニケーション技術が要求される。よい医師に関する今までのアンケートでは、患者の話をよく聴いてくれる医師という項目が常に上位を占めていること、医師と患者本人や家族との間のコミュニケーションの不足がしばしば医療訴訟の根底にあることなど、医療の現場における医療従事者と患者やその関係者との間のコミュニケーションの重要性を示す事例には、事欠かない。

このように、医療の現場におけるコミュニケーションの重要性が広く認識されているにもかかわらず、我が国の医学教育の中で、コミュニケーションに関する教育が十分には行われてこなかったのではないかと思う。その理由の1つは、医学生に対してコミュニケーションの技術を教育できる教員が少ないこと、また、各医科大学もそのような教員の養成にあまり熱心ではなかったことなどが挙げられよう。また、仮にコミュニケーションの教育に興味を持つ教員がいたとしても、その教育のための適切な教科書がないことも、もう1つの理由として挙げられよう。

その意味で、今回、『医療コミュニケーション実践マニュアル』が刊行されたことに、大きな意義があると思う。本書の著者たちは、医療コミュニケーション教育を初級・中級・上級の3つにクラス分けし、初級は医療関係施設で働くすべての職員に適応する内容、中級は医療関係の専門職あるいはその専門職を目指す学生を対象とした内容となっている。また上級では、医療のより難しい場面でのコミュニケーションに関する教育内容となっている。

本書の特徴として挙げられることは、その内容が実践に即した極めて具体的なものとなっていることである。また、絵図が数多く用いられていることが本書の内容を分かりやすくしており、さらにロールプレイのシナリオが随時紹介されていることは、本書の教科書としての利便性を示していると言える。このほかにも評価表の例示等、本書をコミュニケーション教育に使用する時の使いやすさを考えた、細かい配慮が数多くなされている。

本書は、医療コミュニケーションの教育の関係者にとって必携の書であると言っても過言ではないと思う。

自治医科大学
学長 高久史磨